

【参考資料】

セーリング競技江の島開催決定後からの
本市及び関係団体等による取組について



Junichi Hirai/BULKHEAD magazine JAPAN



ミライトワ
MIRAITOWA

© Tokyo 2020



ソメイティ
SOMEITY



目 次

目 次	1
I セーリング競技会場 江の島決定後における本市の主な取組	2 ～ 20
1 東京 2020 大会に向けた諸準備について	2 ～ 3
2 気運醸成の取組	4 ～ 10
3 セーリング競技の普及啓発	11 ～ 14
4 パラスポーツの普及啓発	15
5 市民参加の取組	16 ～ 20
II 支援方針に基づく本市における取組結果の概要 (市の取組全般の報告)	21 ～ 36
III 支援委員会における主な取組	37 ～ 52
1 未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック 藤沢市支援委員会	37
2 支援委員会各団体における主な取組	38 ～ 52
IV 市内各種団体等における主な取組	53 ～ 61
【参考写真】	62 ～ 63

I セーリング競技会場 江の島決定後における本市の主な取組

本市では、市民の皆様の熱意とご支援のもと、2015年6月に開かれた国際オリンピック委員会理事会において、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技の会場を江の島（湘南港）とする案が承認され、江の島でオリンピックが開催されることが正式に決まりました。

セーリング競技は、第1回大会から競技種目となっていますが32回を数えるオリンピック史上、これまで、同じ会場で競技が開催されたことはありませんでした。

今回、1964年大会に続き、再び江の島を舞台としてセーリング競技が開催されたことは、本市としても、大変名誉なことであり光栄なことでありました。

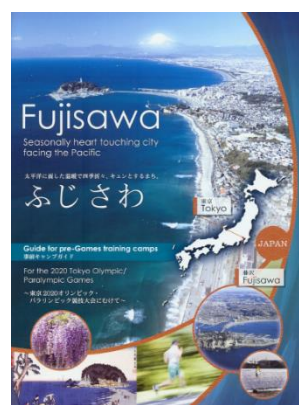
本市では、江の島開催が決定した後、市内の産業、医療、大学、スポーツ及び市民活動などに関わる18団体に、市を加えた19団体により、支援委員会を組織し、市民参加型の大会実現と、未来に向けたレガシー創出など、大会に向けて定めた支援方針に基づき、様々な取組を進めてきました。

ここでは、主に江の島開催が決定した後からの本市における取組について、いくつか紹介します。

1 東京2020大会に向けた諸準備について

(1) 2016年リオ大会の視察

セーリング競技の江の島開催決定を受けて、鈴木市長がリオ大会を視察しました〔2016年8月16日（火）～18日（木）〕。セーリング競技会場を視察し、日本代表選手団を激励したほか、各国オリンピック・パラリンピック委員会（NOC・NPC）や各国競技団体（NF）へ事前キャンプ誘致のリーフレット等で本市のPRを行いました。



(2) 大会に係る各種計画について

東京 2020 オリンピック・セーリング競技が江の島で開催されることが決定したのち、本市では、関連施策・事業を推進するため、次のとおり各種計画等を策定しました。

大会の1年延期をふまえ、すべての計画等ともに対象期間を1年間延長しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、すべての計画等における個別の施策・事業については、感染症対策、安全安心を第一として対応しました。

No.	計画等の名称	計画等の概要	策定期期	対象期間
1	東京 2020 大会に向けた 庁内アクションプラン	市民参加の推進とレガシー創出 に向けた全庁対象としたプラン	2017年3月	～ 2022年3月
2	藤沢市大会関連 ボランティア等推進計画	市民参加型の大会の実現を目的 に戦略・ビジョンを定める	2017年6月	
3	藤沢市大会関連 ボランティア等実施計画	推進計画で定めた事項を基本に 各取組の具体的な内容を定める	2018年3月	
4	藤沢市オリンピック・ パラリンピック 教育プログラム	市民や子どもたちの心身の健や かな成長に寄与することを目的 として策定	2017年12月	
5	藤沢市オリンピック・ パラリンピック 文化プログラム	本市の文化芸術と郷土歴史を国 内外に発信していくことを目的 として策定	2018年3月	



2 気運醸成の取組

大会開催の1000日前や2年前、500日前、1年前、100日前などの節目となるタイミングを捉え、神奈川県や大会公式スポンサー企業等と連携し、盛り上げの記念イベントを実施したほか、大規模イベントにおいて、オリンピック・パラリンピアン等を招いてのスポーツ教室・講演会などを実施してきました。

また、競技開催会場自治体として、商店街へのフラッグの掲出や、東京2020参画プログラムを積極的に活用しつつ、大会気運の醸成を図るとともに、市民団体との協働により気運醸成の取組やボランティア活動などの市民活動の様子を記録した動画を制作し公開するなど、大会への盛り上げを図りました。



1964年東京大会の展示



大会気運醸成イベント
(テラスモール湘南)



棟朝銀河選手 トランポリン教室



加藤ゆか・佐藤久佳・月岡麻美選手 水泳教室



2016年リオ大会 藤沢市 市民報告会





大会 1000 日前イベント



フラッグツアーセレモニー 県庁



藤沢駅自由通路



辻堂駅自由通路



湘南港



市役所新館
(現分庁舎)



湘南台駅地下イベント広場

オリンピック・パラリンピックフラッグ展示



サンパレットデジタルサイネージ



遊行の盆



大会2年前公開記者発表



大会2年前イベント



宮川麻都・隅田凜選手 市長表敬
女子サッカー



海堀あゆみ選手サッカー教室



湘南台ファンタジアでの
ホストタウン紹介パネル展示



大会500日前イベント



大会1年前イベント 2019年



日本代表 水鳥寿思監督 体操教室



江の島シーキャンドル 大会1年前ライトアップ
2020年



カウントダウンボード設置



大会100日前オンラインイベント



藤沢駅南口・北口に横断幕を掲出

市役所庁舎における
工事仮囲いを活用
したPR





総合市民図書館 展示



辻堂市民図書館 展示



南市民図書館 展示



湘南大庭市民図書館 展示



市が作成した
最初の啓発用ポスター



NPO法人湘南遊映坐との協働により市民活動の様子を記録した動画を公開

【オリパラ便・エジプト通信・エルサルバドル通信・ポルトガル通信について】

庁内気運醸成や、事前キャンプ実施国・選手団について興味を持っていただくことを目的として、最新の東京2020大会情報やイベント開催報告、事前キャンプ実施国について掲載したオリパラ便や各国の通信を作成し、藤沢市議会・市職員向けの庁内掲示板に掲出しました。

【オリパラ便】

オリパラ便 vol.43 表紙。2019年12月10日発行。内容は「東京2020大会のボランティヤ募集開始!!」に関する告知と、事前キャンプ実施国の紹介。写真には、ボランティヤの募集風景や、事前キャンプの様子などが写っています。

オリパラ便 vol.42 表紙。2019年11月27日発行。内容は「東京2020大会のボランティヤ募集開始!!」に関する告知と、事前キャンプ実施国の紹介。写真には、ボランティヤの募集風景や、事前キャンプの様子などが写っています。

オリパラ便 vol.44 表紙。2019年12月10日発行。内容は「東京2020大会のボランティヤ募集開始!!」に関する告知と、事前キャンプ実施国の紹介。写真には、ボランティヤの募集風景や、事前キャンプの様子などが写っています。

オリパラ便 vol.120 表紙。2020年12月9日発行。内容は「藤沢市ゆかり セーリング女子470級のペア 吉田愛 吉岡美帆 選手 代表決定!!」に関する告知。写真には、選手たちの写真や、表彰式の様子が写っています。

オリパラ便 vol.128 表紙。2020年12月22日発行。内容は「オンラインサーフィン 都筑有夢路選手へ 藤沢市市民栄誉賞 贈呈」に関する告知。写真には、選手の写真や、表彰式の様子が写っています。

オリパラ便 vol.136 表紙。2021年12月22日発行。内容は「3年に及ぶ活動に感謝と職員の未来に向けて〜シティキャストフジサフ サックスイベント開催」に関する告知。写真には、イベントの様子や、選手たちの写真が写っています。

【エジプト通信】

エジプト通信 Vol.7 表紙。内容は「エジプト代表の事前キャンプの様子」に関する告知。写真には、選手たちの練習風景や、食事の様子が写っています。

エルサルバドル通信 Vol.16 表紙。内容は「エルサルバドル代表の事前キャンプの様子」に関する告知。写真には、選手たちの練習風景や、食事の様子が写っています。

ポルトガル通信 Vol.23 表紙。内容は「ポルトガル代表の事前キャンプの様子」に関する告知。写真には、選手たちの練習風景や、食事の様子が写っています。

3 セーリング競技の普及啓発

本市江の島が開催会場となるセーリング競技については、2016年に開催されたリオ大会で、セーリング競技の模様をパブリックビューイングで放映したことを皮切りに、市民まつりや産業フェスタ等、市民の皆様が多く集まる機会を捉え、主催者や競技団体と連携して競技艇の展示や陸上体験会、競技の魅力・ルールを紹介する動画を放映するなどしたほか、子どもたちを対象としたセーリング特別授業の実施、さらには、誰もが参加できるふじさわセーリングフェスタを2017年度以降、毎年開催するなど、競技の普及啓発を図ってきました。

——— 【2016年のリオ大会セーリング競技普及啓発・藤沢市ゆかりの選手の応援】 ———



パブリックビューイングでセーリング競技観戦と解説を実施（ミナパーク）



セーリング競技等、大会の模様を市役所新館（現分庁舎）で放映



リオ大会エンブレム



女子470級出場

吉田 愛 選手 吉岡 美帆 選手
 (日本大学生物資源科学部卒) (藤沢市在住)



レーザーラジアル級出場

土居 愛実 選手
 (慶應義塾大学環境情報学部卒)



太鼓集団ふじによるおもてなし演奏



藤沢マイスターのおもてなしブース



セーリングのトラッキングシステム



「帆船 みらいへ」の体験乗船を実施



湘南台駅地下広場でセーリング競技の
パブリックビューイングを実施



NHK横浜放送局との共催事業 「体感！セーリングの魅力 in 江の島」
 オリンピアンの高橋 賢次 選手にご出演いただき、後日、NHK BS1で放映されました。



賀詞交換会



藤沢市民まつり



セーリング写真展



ミーティング 藤沢

市と市民活動推進機構
 の協働事業

2004年アテネ大会
 セーリング男子470級
 銅メダリストの関一人
 氏を招き実施



藤濤会（公共団体、経済団体などによる連携等を目的とした団体）
 日本セーリング連盟からオリンピックでもある齋藤愛子氏を招き、
 鈴木市長とのトークセッションを開催



観覧艇から江の島オリンピックウィーク観戦



プールでセーリング体験



牧野幸雄選手（リオ大会まで3大会連続出場）のセーリング授業（片瀬中学校・秋葉台小学校）



産業フェスタでのセーリング陸上体験会



セーリング競技ガイドパンフレット



ヨット（4月10日）の日にちなんだヨット展示



セーリングすごろく
市内の全公私立小学校と特別支援学校（小学部）に配布



セーリングVR体験

4 パラスポーツの普及啓発

本市では、東京 2020 パラリンピック競技大会の開催を、パラスポーツの普及を進めるまたとない好機と捉え、子ども、高齢者、障がい者など、誰もが「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」スポーツに親しみ、健康で豊かなスポーツライフを確立できるよう、パラリンピアン教室や、パラスポーツフェスタ、ボッチャ競技大会、各公民館におけるパラスポーツ体験講座など、大会開催を契機として、パラスポーツの普及啓発の取組を進めました。



ふじさわボッチャ競技大会



パラアスリートのちから
パラ卓球・岩渕 幸洋 選手（東京 2020 大会出場）
車いすバスケットボール・西村 元樹 選手



パラスポーツフェスタ



セーリングフェスタ
誰でも安心してセーリングを楽しめる
ハンザクラスを使用



ボッチャ競技体験コート
市役所本庁舎 5 階ロビー

5 市民参加の取組

(1) 2020 応援団 藤沢ビッグウェーブ

「2020 応援団 藤沢ビッグウェーブ」(以下「藤沢ビッグウェーブ」)は、オリンピック・パラリンピック開催という、またとない機会を、市民を始め多くの皆様に、様々な形で大会に関わり、楽しんでいただくとともに、大会後においても、その一体感を後世につなげ、大会を通じて得た一体感や、オリンピック・パラリンピックならではの経験を、本市のレガシーとすることなどを目的に、特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構との協働事業として、2018年4月に発足しました。

藤沢ビッグウェーブの取組としては、設立記念イベントを皮切りに、団員の皆様への大会関連情報の発信を始め、本大会に向けた盛り上げイベントの実施、更には、団員の皆様による自発的な活動を促し企画づくりを目指すワークショップ「アイデアソン」の実施など、市民参加型の大会を具現化するための基軸となる取組として、発足から現在に至るまで、多岐に渡る事業を展開してきました。

藤沢ビッグウェーブは、東京2020大会の終了に伴い、その役割を終え、2022年3月末日をもって解散となります。これに伴い、団員の皆様には「チーム FUJISAWA2020」への登録などを積極的に働きかけるとともに、引き続き、多くの方々の熱意やアイデア、ノウハウを、藤沢のまちの元気に確実につなげていけるよう、市民の皆様とともに取組を進めてまいります。

【団員による主な自主企画活動】

ア 遊行の盆でおどろう

おそろいの法被を着て、市民まつりや遊行の盆で、ヨット音頭などを披露しました。企画会議、関係各所への申請、補助金の申請を実施し、練習会を重ね、踊りの披露によって本大会に向けた気運を高めることができました。



イ 創作紙芝居「人間愛の金メダル」

団員有志である大学生などが、1964年の東京オリンピック・ヨット競技で「人類愛の金メダル」と新聞報道された実話を基に、脚本作成・作画を行い、オリジナルの紙芝居を制作しました。



ウ 応援団ガイドブック

「東京 2020 大会をきっかけに藤沢にいらっしゃった方々が、藤沢にもう一度来たくなる。」をコンセプトに、団員有志により、藤沢の魅力を掲載したガイドブックの企画・取材・執筆・編集がされ、オンラインで公開されました。



プライベートでの団旗制作



設立キックオフイベント



アイデアソン (2019年3月23日(土)実施)



団員 1 万人突破記念 市長公開記者発表



ビッグウェーブ再集結！1年前オンラインまつり

(2) シティキャストフジサワ（藤沢市都市ボランティア）

シティキャストフジサワ（藤沢市都市ボランティア）は、セーリング競技の開催会場が江の島に決定したことを受け、市民が直接的に大会に参加することができる貴重な機会として、政策的に取組を進めてきました。

シティキャストの取組は、2017年6月に「大会関連ボランティア等推進計画」を策定し、この中で、推進ビジョンに「みんなでつなごう！ 東京2020ボランティア 次世代へ、その先の未来へ」を位置づけ、また、2018年3月には、「藤沢市大会関連ボランティア等実施計画」を定め、これらの計画に基づき、具体的な実施に向けた取組を進めてきました。

ア 募集開始前の盛り上げイベント



2017年 ボランティアシンポジウム

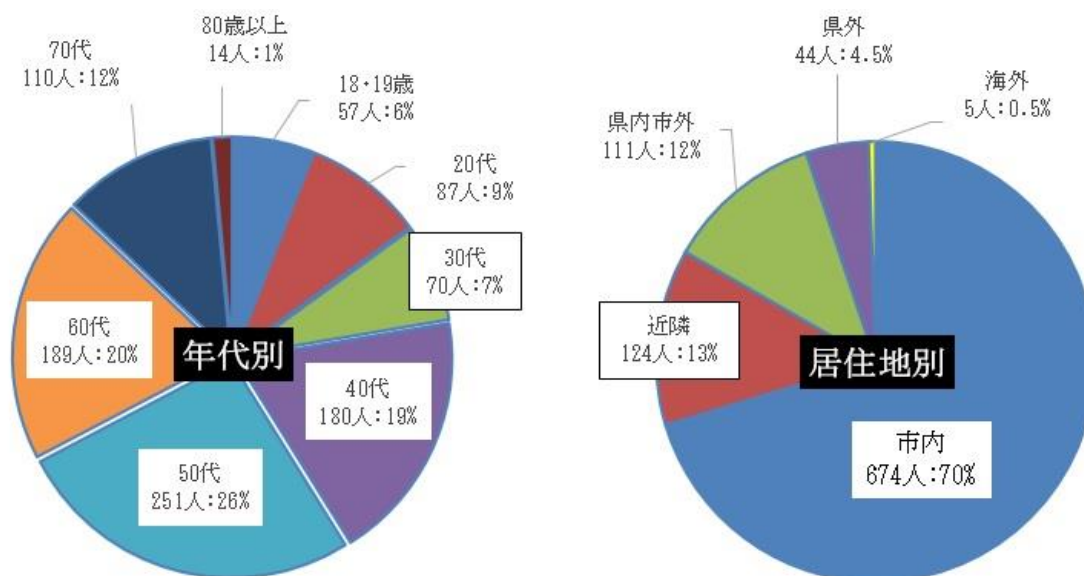


2018年 ボランティアフォーラム

イ シティキャストフジサワの登録者の概要

登録者数：958人（リーダー158人 メンバー800人）

※辞退等により最終的な人数は、797人



シティキャストフジサワの年代別・居住地別の割合（登録時点のデータ）

近隣：
横浜市戸塚区・泉区、綾瀬市、海老名市、大和市、
鎌倉市、茅ヶ崎市、寒川町

ウ 募集から活動までの流れ

(ア) 募集結果

区分	募集期間	募集人数	応募者数
リーダー候補	2018年9月26日(水)～ 12月7日(金)	100人	565人
メンバー	2019年4月10日(水)～ 7月5日(金)	800人程度	2,506人

(イ) 主な活動実績

- 2019年 3月～5月 リーダー研修
 8月～9月 キックオフフォーラム
 セーリングワールドカップシリーズでの実地研修
 10月～11月 選択研修(観光・英語・リスクマネジメントなど)
 11月～12月 共通研修(集合研修+eラーニング)
- 2020年 1月～2月 任意研修(国際交流研修, 津波避難訓練など)
 11月 リスタートWEBパーティー(オンラインイベント)
- 2021年 1月 選択研修(スポーツ・まちづくり・地域ボランティアなど)
 3月 救命救急講習(オンライン)
 新型コロナウイルス対策講習(オンライン)
 6月 役割別研修(リーダー, 案内誘導, 救護・本部サポートなど)
 ユニフォーム配付



ブースでの案内ボランティア
(セーリングワールドカップシリーズ2018)



リーダー研修



ユニバーサル解放デー
新江ノ島水族館



キックオフフォーラム



実地研修
(セーリングワールドカップシリーズ2019)



リスタートWEBパーティー



オンライン研修



ユニフォームを着用したシティキャストによるおもてなし



(3) 本市独自企画のボランティア活動

本市では、市民参加型の大会を具現化するための柱の一つとして、市独自企画のボランティア活動を設ける予定で取組を進め、参加者を募りました。この取組につきましては、聖火リレーなど3つの事業のほか、中学生・高校生を対象としたボランティア体験を行う予定で準備を進め、すべての事業へ多くの皆様からご応募いただきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、事業自体を中止・縮小するとともに、感染拡大防止の観点からすべてのボランティア活動を中止といたしました。

活動予定イベント	募集人数	応募者数	中止の主な理由
聖火リレー	300人	396人	聖火リレー公道走行中止のため
事前キャンプ	100人	130人	ボランティア及び選手関係者双方の感染リスク回避のため
ライブサイト	200人	248人	ライブサイト中止のため
中学生・高校生 ボランティア体験	200人	456人	中高生及び選手関係者双方の感染リスク回避のため

II 支援方針に基づく本市における取組結果の概要（市の取組全般の報告）

本市は、2016年7月に、支援委員会が定めた「市民参加型オリンピック・パラリンピックの実現」と「未来に向けたレガシー創出」に向けた取組を通じて、「地域と市民が元気になること」の具現化を目指し、本市の施策・事業を効果的かつ着実に推進するため、アクションプランを策定し、市を挙げて取組を進めてきました。

本市では、東京2020大会に、すべての市民に関わっていただくことを目指し、また、支援方針に掲げる10本の柱について、市の様々な施策・事業を推進してきました。ここで、支援方針に掲げる10本の柱に基づく本市における施策・事業の実施結果について報告します。

〔支援方針に掲げる10本の柱に基づく取組〕

1 気運を高める取組とスポーツ推進に関する取組

大会に向けて気運を高める取組を進めるとともに、大会を契機として、子ども、高齢者、障がい者など、誰もが「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しめるよう、生涯スポーツ・パラスポーツ施策を推進しました。

本取組の詳細については、本報告書内、別項の各所にそれぞれ記載のとおりです。

2 ボランティア等の市民参加に関する取組

大会を契機として、市民参加型の大会を具現化するため、多くの市民の皆様、様々な形で大会に関わっていただく取組を積極展開し、さらには、「チームFUJISAWA 2020」の立ち上げに向けて事業を進めていくなかで、大会後における本市のボランティア活動の更なる推進と充実を図るための礎を築きました。

本取組の詳細については、本報告書内、別項の各所にそれぞれ記載のとおりです。

3 健康増進に関する取組

スポーツを通じた取組など、健康増進に向けた啓発事業の充実を図ることにより、自分らしく、より一層生き生きと暮らすことができるよう、東京2020大会の開催を契機として、健康長寿に関する意識向上に向けた取組を進めました。

（1）私の夢カレンダー

東京2020大会に向けて、市民の皆様が夢や目標を立てることにより、モチベーションを高めて大会までの日々を過ごしていただくことを目的に作成しました。各自の夢や目標を設定し、それに向けた毎日の「あゆみ」を記入していただき、市民一人ひとりの取組をレガシーとしていただくきっかけづくりを行いました。

作成部数 2017年度：6,500部
 2019年度：50,000部を増刷
 ※2019年度は、健康増進の取組「ふじさわ夢チャレンジ2020」と連携し、同応募用紙を組み込んで50,000部を配布



(2) ふじさわ夢チャレンジ2020〔健康増進課（現 健康づくり課）〕

東京2020大会を契機に、市民一人ひとりが楽しく気軽に、健康づくりに取り組むきっかけづくりとして、インセンティブを示したポイント付与型キャンペーンとして「ふじさわ夢チャレンジ2020」を実施しました。

期 間 2019年7月末～2020年3月31日（火）

応募総数 905件



(3) スポーツ栄養講座（スポーツ推進課）

スポーツに励んでいるジュニア世代・指導者・保護者の方を対象に、公認スポーツ栄養士による「スポーツ栄養講座」をNPO法人湘南栄養指導センターとの協働によりオンライン形式で開催しました。正しい栄養知識とスキルを習得し、食生活を改善することで、子どもたちの心身の健全育成、競技力向上等を目指して実施しました。

4 文化・教育に関する取組

(1) 文化に関する取組

大会開催を契機に、本市の文化芸術・郷土歴史を国内外に発信していくことを目的として、2018年3月に本市独自の文化プログラムを策定し、本市が誇る文化事業の取組を進めてきました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、計画していた事業が予定どおり実施できないなかでしたが、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会における選手や関係者に向けた日本文化の体験イベントなどを通じて、文化都市ふじさわの魅力を国内外に広く情報発信しました。



藤沢市文化団体連合会による文化体験おもてなし



藤沢マイスターによる
おもてなしブース



藤沢市技能職団体連絡協議会による
文化体験ブース



湘南台アートスクエアプロジェクト



まちの彫刻
ピカピカプロジェクト



文化分野の参画プログラム認証事業

(2) 教育に関する取組

2017年12月に本市が独自に策定した教育プログラムに基づき、オリンピック・パラリンピアンを招いての講演会や、海外セーリング選手との交流などを通じて、努力することや達成することの喜びを学ぶとともに、障がいがある人への理解や、諸外国の文化を学ぶなど、教育全般に関する様々な取組を進めました。

ア フラワーレーンプロジェクト

選手や関係者へのおもてなしの取組として、競技会場内にアサガオを配置するフラワーレーンプロジェクトを実施しました。実施に当たっては、アサガオの種蒔きから生育、応援メッセージの寄せ書きなどを市内の市立小学校の児童が携わりました。

同プロジェクトのテストとして、2019年8月17日(土)～22日(木)の日程で行われたREADY STEADY TOKYO - セーリング〔オリンピックテストイベント〕において、村岡小・八松小・高砂小の3校が協力して同プロジェクトに取り組みました。3校で生育された450鉢のアサガオは、児童からのメッセージとともに、テストイベント会場に配置されました。

同年6月17日(月)に村岡小で行われた種まきイベントには、東京2020マスコットの「ミライトワ」と「ソメイティ」が駆けつけ、児童の皆さんと一緒に種まきを行い、この時の模様は、IOCのホームページから広く国内外に発信されました。また、同年8月19日(月)に行われた「ベニユーツアー及びフラワーレーン設置体験」に、同プロジェクトに取り組んだ3校から希望者約50人が招待され、テストイベント会場内の見学とアサガオの設置体験を行いました。本プロジェクトは、セーリングとビーチバレーの2つの競技会場のみで開催され、児童たちにとって貴重な体験となりました。

なお、本大会時には、辻堂小・富士見台小・大鋸小の児童に同プロジェクトにご協力いただき、セーリング選手・関係者を360鉢の満開のアサガオがお出迎えしました。



イ 海外セーリングチームと児童・生徒の交流

【アメリカセーリングチーム と 天神小学校の児童】



選手と児童との交流



選手に藤沢産の枝豆や梨， トマトなどの農産物を試食いただきました

【オーストリアセーリングチーム と 村岡中学校の生徒】



選手と生徒が踊りで交流

選手は民族衣装を身に着けて参加



吹奏楽部の生徒から歓迎の演奏

選手と生徒と一緒に記念撮影

【ノルウェーセーリングチーム と 長後小学校の生徒】



児童からの応援メッセージ・イラストをコンテナに貼り付けるため、シート状にしてプレゼント

ウ 東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー

大会気運醸成のため、オリンピック・パラリンピックフラッグが全国を巡回するフラッグツアーを実施。市内の一部の小・中・特別支援学校で展示を行いました。



フラッグツアー小学校訪問 俣野小学校



湘洋中学校（写真） 及び 高浜中学校



白浜養護学校

エ セーリングワールドカップシリーズ2018の観戦

片瀬小学校3年生の児童が、帆船やまゆりに乗船し、セーリングワールドカップシリーズを観戦しました。



オ あすチャレ! School

日本財団パラリンピックサポートセンターが、パラアスリートからの講話とパラスポーツ体験を通じて、多様性の大切さなどについての気づきと学びの機会を提供するプログラムを市立小・中学校で実施しました。



2017年 片瀬小学校で車いすバスケットボールを実施
講師 根木 慎志 選手 (2000年シドニーパラリンピック出場)



2019年 大鋸小 (写真左), 高浜中 (写真右), 新林小, 浜見小の各学校でゴールボールを実施
講師 高田 朋枝 選手 (2008年北京パラリンピック7位入賞)

2019年は、上記学校に加え、羽鳥中学校でも2004年アテネパラリンピックで銅メダルを獲得した、永尾嘉章選手を講師に迎え、車いす陸上を実施しました。

カ パラリレーレース

東京2020大会パートナーである凸版印刷株式会社、一般社団法人日本パラ陸上競技連盟等と本市が連携し、大庭中学校の生徒が、2012年ロンドンパラリンピックに出場した花岡伸和選手から、パラリレーレースの実技指導を受けました。指導の成果は後日行われた体育祭で披露されました。



花岡伸和選手のパラリレー授業
(2012年ロンドン大会 陸上競技5位入賞)



体育祭パラリレーレース

キ 学校給食

東京 2020 大会の気運醸成及び、食の重要性を伝えることを目的に、藤沢市ゆかりの5人のオリンピック・アスリートにアンケートを実施し、「思い出の給食」をもとにアレンジした献立を、市立小学校の児童に提供しました。セーリング競技のオリンピックである牧野幸雄選手からは、ボイスメッセージをいただき、給食時間中に校内放送し、アスリートとして食事に気を付けていることや、食に対する思いなどを児童に伝えていただきました。

また、県立スポーツセンターで事前キャンプを実施した3か国にちなんだ給食も提供し、給食を通じて国と食文化などの多様性に関する理解促進に取り組みました。

【藤沢市ゆかりのオリンピック・アスリートの思い出の給食】



ソフトめんミートソース
吉田 愛 選手
セーリング女子 470 級



ビビンバ
吉岡 美帆 選手



あげぼん
宮川 麻都 選手
サッカー女子



すきやきに
牧野 幸雄 選手
セーリング 49er 級



ソフトめんごもくあんかけ
小川 希花 選手
スケートボード

【事前キャンプ実施3か国にちなんだ給食】



【エジプト】
・コシャリ（豆とマカロニ入り
トマトソースかけごはん）
・モロヘイヤとたまごのスープ



【エルサルバドル】
・ポジョフリート（フライドチキン）
・フリホーレス（いんげん豆の塩ゆで）



【ポルトガル】
・豚肉とあさりのアレンテージョ
（アレンテージョ地方の郷土料理）

5 産業・観光振興に関する取組

東京 2020 大会を契機として、更なる産業振興と裾野の広い観光誘客を一層推進するため、開催会場自治体として、江の島に来られる多くの方々を想定し、江の島島内の常設公衆トイレの新設や、多言語の観光案内サインを整備するほか、ホテルの誘致施策を実施するなど、おもてなしの視点で受け入れ環境の整備をすすめました。

(1) 観光施設の整備（観光課）

観光案内板について、新たに英語など多言語で表記したサイン板を江の島島内や藤沢市片瀬江の島観光案内所前等、ラストマイルを中心とした周辺エリアに設置しました。また、観光客の利便性の向上を図るため、江島神社中津宮前にトイレを新設しました。



(2) ホテル誘致施策の実施（産業労働課）

「藤沢市企業立地等の促進のための支援措置に関する条例」を改正してホテル誘致を行い、客室数などの要件を満たした2件のホテルに対して税制優遇の決定をしました。

6 環境に関する取組

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト「Be better, together より良い未来へ、ともに進もう。」のもとに開催される大会を契機として、環境負荷の軽減、循環型社会の推進を図るとともに、さまざまな方が快適に活動できるよう、周辺トイレの整備、禁煙対策、及び環境美化イベントによる意識啓発など、ハード・ソフト両面で取組を進めました。

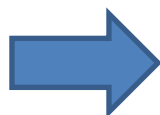
(1) 周辺トイレの整備（環境総務課）

東京 2020 大会セーリング競技開催期間中、誰もが安全に安心して利用できる公衆トイレにするため、公衆便所の便器の洋式化及びバリアフリー化、スロープ等の整備を行いました。



(2) ラストマイル上の禁煙対策（環境総務課）

東京 2020 大会セーリング競技の開催期間中、江の島周辺の 3 駅から競技会場に向かう動線（ラストマイル）上となる江の島弁天橋手前の喫煙スペースを閉鎖し、通行者が快適に往来できるよう、対応を図りました。

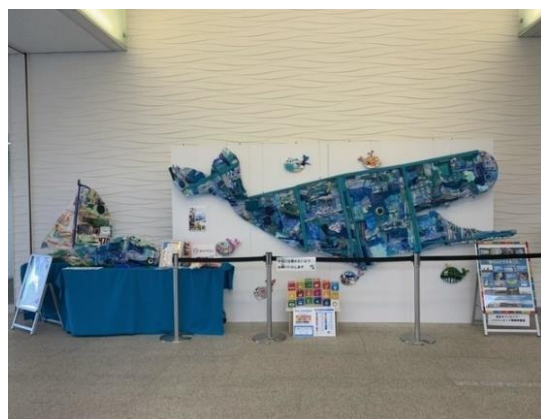


(3) 環境美化啓発イベント

東京 2020 大会の開催を契機とした、SDGs, 持続可能性等をテーマとした環境美化啓発イベントを神奈川県や環境団体等と連携し実施しました。



片瀬東浜でのスポGOMI



市役所本庁舎 1階プロムナードでの
アートごみ展示

(4) 環境美化キャンペーン・啓発イベント

一般消費財メーカーのご協力により、「江の島の海とセーリング」をテーマにしたイラストを市内の中学生～大学生から募集し、採用されたものをボディソープのパッケージに使用。売上の一部を、イラスト採用者の所属する学校と協力メーカーで行うビーチクリーンの実施費用に充てました。



(5) アート展示による環境啓発

持続可能性や環境教育, 地球規模の市民参加などをテーマに活動を行う市内の一般社団法人の企画で, 在日カナダ大使館から協力をいただき, 海洋プラスチックごみなどを使用した国内外のアーティストによる作品を市役所本庁舎 1階に展示し, 啓発を図りました。



7 共生社会の推進に関する取組

多様性と調和をビジョンの一つに掲げる東京2020大会の開催を契機として、オリンピックの目的である人間の尊厳保持と平和な社会を目指し、人権尊重の理念の普及啓発を図るとともに、多文化共生や国際交流等の取組を進めました。

(1) 庁内各課等における取組

庁内各課等において参画プログラムを活用した共生社会の推進に関する講座・イベントや点字で表した東京2020大会エンブレムの作成など様々な取組を行いました。

平成29年度 善行公民館 人権講座
教育プログラム
「パラリンピアンから学ぶ」
～勇気をもって 自分らしく～
講師 秋元 妙美氏
日時 午後1時30分から3時30分まで
場所 善行公民館 体育室兼ホール
対象 市民一般（中学生以上）70名（先着順）
参加費 無料
申し込み 7月19日（水）から善行公民館へ

人権講座
(善行公民館)

2市1町（藤沢市・茅ヶ崎市・室川町）広域連携事業
第33回 藤沢市人権啓発講演会
出会いこそ生きる力
日時 2018年12月15日（土）
午後1時30分～3時30分
会場 藤沢市民会館 小ホール
定員 400人
講師 サヘル・ローズ氏
申し込み・問い合わせ先
TEL 0466-25-1111 (内線2132)
FAX 0466-24-5928

人権啓発講演会
(人権男女共同平和国際課)



点字の大会エンブレム
(点字図書館)

(2) 姉妹友好都市との交流（人権男女共同平和国際課）

姉妹友好都市との親善交流を深めるため、湘南藤沢市民マラソンに国内外の姉妹友好都市を招待し、レースへの参加を通してスポーツ交流や市民交流を図り、友好の輪を広げました。



オープニングセレモニー



参加者同士の交流

2018年時の様子

(3) 姉妹友好都市からのメッセージ動画（人権男女共同平和国際課）

東京 2020 大会セーリング競技に姉妹友好都市の皆様を招待し、観戦をしていただく取組を実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により実施ができなくなったことから、これに代わる親善交流の取組として、国内外の姉妹友好都市の首長や市民の皆様から、大会開催及び選手への応援メッセージ動画をお送りいただきました。

動画は、市役所において実施予定であったライブサイトで放映する目的で制作されたものですが、ライブサイトが新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となったため、本庁舎記念撮影用モニター及び市ホームページで放映しました。



本庁舎記念撮影用モニターでの放映



姉妹友好都市からの大会開催及び選手への応援メッセージ動画

8 救急・医療体制に関する取組

東京 2020 大会を契機として、救急・医療体制について、関係機関・団体との連携強化に努め、神奈川県を始めとする県内自治体等と連携するなど、安全安心の大会実現に当たり万全の対応を図りました。

消防局では、救急隊員が外国人傷病者に対して適切なコミュニケーションを図ることができるよう、多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」を全救急隊に配備するなど、救急体制の充実を図りました。

また、市民病院では、大会期間中、医療通訳やコーディネーターを配置するとともに、救命救急センター等の案内サインを英語併記とするなど、外国人患者を受け入れるための整備を行いました。



「救急ボイストラ」の画面イメージ

9 安全安心に関する取組

東京 2020 大会を契機として、防災、テロ対策等について、神奈川県等の関係機関や地元各団体との連携協力を図りながら、不測の事態に備えるべく諸対策を推進し、安全安心の大会運営の実現に当たり必要な対策を講じました。

(1) 各種訓練の実施（危機管理課・警防課）

東京 2020 大会セーリング競技開催に伴い、江の島周辺での津波災害やテロ災害の発生に備え、関係機関と連携し各種訓練を実施しました。



江の島島内での津波を想定した避難訓練



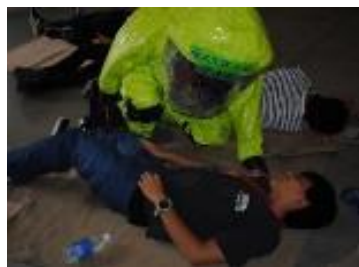
新江ノ島水族館でのテロを想定した訓練



小田急電鉄片瀬江ノ島駅でのテロを想定した訓練

(2) 各種災害対応資機材の整備 (警防課)

東京 2020 大会におけるテロ等の特殊災害への対策を強化するため、各種災害対応資機材の整備等を行いました。



10 周辺環境整備に関する取組

東京 2020 大会の開催を契機として、バリアフリー化等の都市基盤整備と、大会終了後を見据えた周辺環境施設等について、整備を進めました。

(1) 競技会場周辺の整備

セーリング競技会場の最寄り駅である片瀬江ノ島駅前の交通空間 (ロータリー) や駐輪場の整備のほか、鵜沼海岸 10 号踏切の改良, 湘南モノレール湘南江の島駅のエレベーター設置に対する補助, 観客動線となる弁天橋の改修など, 競技会場周辺における利便性や安全性の向上を図りました。



片瀬江ノ島駅前のロータリー・駐輪場の整備 (道路河川総務課・道路整備課)



鵜沼海岸 10 号踏切の改良 (道路整備課)



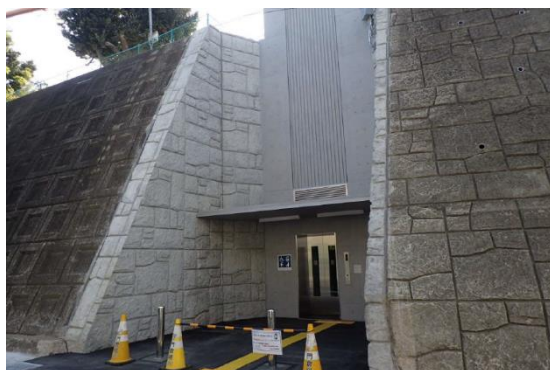
弁天橋の改修 (道路維持課)



湘南モノレール湘南江の島駅
エレベーター設置への補助 (都市計画課)

(2) 県立スポーツセンター西側階段付近へエレベーター設置 (道路整備課)

事前キャンプの実施を見据え、拠点施設である県立スポーツセンター西側階段付近にエレベーターを新設し、バリアフリー化の促進を図りました。



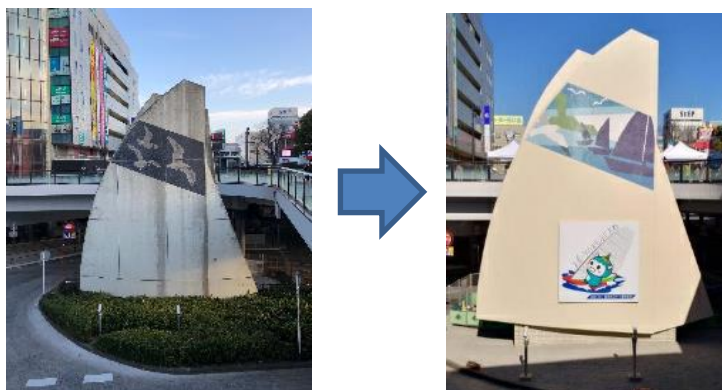
県立スポーツセンター西側階段付近にエレベーターを設置

(3) 藤沢駅周辺の整備 (藤沢駅周辺地区整備担当)

東京 2020 大会の開催を見据え、藤沢駅北口ペデストリアンデッキや交通広場等の再整備を行い、藤沢都心部の活性化に向けた取組を促進しました。また、藤沢駅北口排気塔を、大会開催や藤沢市スポーツ都市宣言を契機として、2022 年 1 月、セーリングデザインにリニューアルしました。



藤沢駅北口ペデストリアンデッキ (サンパール広場)



藤沢駅北口排気塔

Ⅲ 支援委員会における主な取組

1 未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会

2013年9月、国際オリンピック委員会（I O C）総会において、2020年夏季大会の開催都市に東京が選ばれたことを受けて、本市では、市民、関係団体と一体となった大会支援が重要であると考え、2014年4月、市民協働組織として「未来（あした）をつかむ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市誘致・支援委員会」を設置し、全市的な誘致・支援等の体制を充実させる中で、取組を進めてきました。

その後、2015年6月のI O C理事会において、セーリング競技の開催会場が当初の開催計画で予定されていた東京都江東区若洲から、江の島に変更することが承認され、これを受けて会議体の名称を「未来につなぐ東京オリンピック・パラリンピック藤沢市支援委員会」に変更しました。

支援委員会では、設立後、団体相互の連携を図りながら取り組んできました。

東京2020大会の前哨戦として2018年、2019年に江の島で開催（2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により中止）されたセーリングワールドカップシリーズでは、地域活性化を含む大会開催に要する費用面での支援を始め、様々な形で地元として協力するなど、この間、セーリング競技の普及啓発とともに、本大会に向けて地元藤沢を盛り上げていこうと、市を挙げて取組を図ってきました。

	団体名		団体名
1	藤沢商工会議所	11	公益財団法人藤沢市保健医療財団
2	公益社団法人藤沢市観光協会	12	社会福祉法人藤沢市社会福祉協議会
3	一般社団法人藤沢市商店会連合会	13	特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構
4	公益財団法人湘南産業振興財団	14	江の島振興連絡協議会
5	一般社団法人藤沢青年会議所	15	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
6	藤沢市体育協会	16	日本大学生物資源科学部
7	公益財団法人藤沢市みらい創造財団	17	湘南工科大学
8	公益社団法人藤沢市医師会	18	多摩大学グローバルスタディーズ学部
9	公益社団法人藤沢市歯科医師会	19	藤沢市
10	一般社団法人藤沢市薬剤師会		



2 支援委員会各団体における主な取組

支援委員会の各団体では、東京 2020 大会に向けて、気運醸成を始め、セーリング競技、さらにはパラスポーツの普及啓発等、様々な取組を行っていただき、ご支援・ご協力をいただきました。

(1) 藤沢商工会議所

東京 2020 大会・セーリング競技の普及啓発へのご協力に加え、オリンピック聖火リレーや、セーリング選手おもてなし活動など、多面的な事業協力をいただきました。

また、セーリングワールドカップシリーズでは、藤沢商工会議所をはじめ神奈川商工会議所連合会の皆様にも、費用面でのご協力をいただきました。



商工会議所青年部主催
市ヨット協会の加藤 洋氏を
お招きしセーリングについて講演



会報紙 みなばーくに東京 2020 大会などの情報を
2017 年 11 月～2021 年 11 月の 4 年に渡り毎号掲載



市民まつりオープニングで江の島ヨット音頭と東京五輪音頭-2020-を披露



江の島ヨット音頭 踊り講習会





2021年7月22日(木・祝) 女性会のメンバー等が江の島ヨット音頭・東京五輪音頭-2020-を踊り、競技会場に向かうセーリング選手らをおもてなし

(2) 公益社団法人藤沢市観光協会

東京2020大会・セーリング競技の江の島開催について、横断幕等の設置、各種紙面や多言語観光ウェブサイトへの掲載、聖火リレーミニセレブレーションへの参画や選手へのプレゼント贈呈、また、外国語観光ボランティアガイドのシティキャスト参加など、様々な広報・おもてなし活動を展開し、多岐に渡って大会にご協力いただきました。

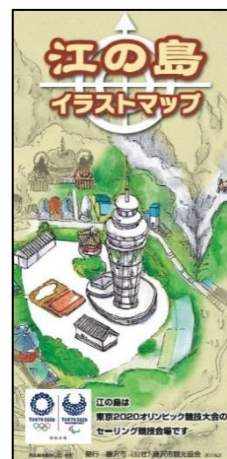
ア セーリング競技江の島開催決定の横断幕・看板の設置 (2015年)



イ ふじさわ観光通信への掲載 (2015年)



ウ 江の島イラストマップへの掲載 (2018年~2021年)



- 6言語作成
- ・日本語
 - ・英語
 - ・中文繁体字
 - ・中文简体字
 - ・韓国語
 - ・フランス語

エ 多言語公式観光ウェブサイト Discover FUJISAWA への掲載 (2016年～)



オ 藤沢市観光パンフレット「るるぶ特別編 藤沢」への掲載 (2015年, 2019年)



2015年



2019年



カ セーリング選手村・事前キャンプで選手関係者にオリジナル御朱印帳の贈呈 (2021年)



キ 江の島ヨット音頭・東京五輪音頭 - 2020 - 披露イベント事務局 (2021年)

約 200 人により、セーリング選手関係者に江の島ヨット音頭・東京五輪音頭-2020-を披露するイベントである「オリンピック聖火リレー江の島ミニセレブレーション運

営委員会」の事務局となり、事前準備から当日の運営まで対応いただきました。

また、同イベントで着用したものと同一デザインのオリジナルの法被を、本市が事前キャンプ地となったパラリンピックポルトガル選手団に贈呈しました。



ク 市のデジタルサイネージでおもてなし動画放映

7月22日（木・祝）に開催したセーリング選手へ、江の島ヨット音頭・東京五輪音頭-2020-を披露した際の様子をまとめた動画を、市役所本庁舎5階ロビーにあるデジタルサイネージで放映し、多くの市民に、おもてなし活動の実績を紹介しています。



(3) 一般社団法人藤沢市商店会連合会

大会気運醸成のために、多くの市民の目に留まる市内10か所の商店街の街路灯フラッグ設置場所をご提供いただき、約400か所に大会エンブレムデザインのフラッグを掲出させていただきました。



(4) 公益財団法人湘南産業振興財団

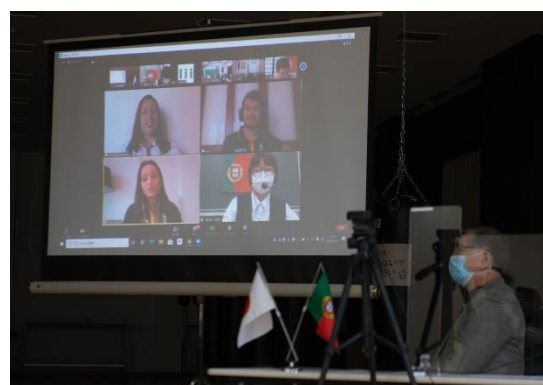
セーリングワールドカップシリーズのダイジェスト映像を、本庁舎のサイネージ等で視聴が可能となるようにデジタルデータの変換の技術協力をいただき、多くの来庁者に映像をご覧いただくことができました。



(5) 一般社団法人藤沢青年会議所

ア 「教えて！オリンピック・パラリンピックのちから～『+1』from FUJISAWA～」の開催

2020年10月、県立スポーツセンターで、東京2020パラリンピックに出場したポルトガルパラリンピック選手団の選手らと、東京2020パラリンピックの水泳で金メダルを獲得した木村敬一選手が出演し、市内の中学生とオンラインで交流を行い、ポルトガルやパラスポーツ、共生社会について理解を深めるきっかけを作ることができました。



イ オリンピック・パラリンピックをイメージしたカラーのピアノ寄贈

2021年12月、東京2020オリンピック・セーリング競技と、事前キャンプが藤沢市で開催されたことをレガシーとして形に残すために、オリンピック・パラリンピックをイメージしたカラーを施したピアノを市に寄贈していただきました。



(6) 藤沢市体育協会

ア 聖火ランナーの集い 2020 江の島セーリング競技の成功を目指して

東京2020大会で、江の島がセーリング競技会場になったことを契機として、1964年東京大会で聖火ランナーを務めた方や関係者などを対象とした会合を2015年度から2019年度まで開催しました。講演の講師には、日本セーリング連盟オリンピック強化委員会の齋藤愛子氏や、2016年のリオ大会セーリング競技の日本代表で、49er級の高橋賢次氏や牧野幸雄氏を迎えるなど、藤沢市全体が一丸となって東京2020大会を盛り上げるために取り組んでいただきました。



2017年10月実施
講師に高橋賢次選手を迎え開催



2018年12月実施 講師に牧野幸雄選手を迎え開催



イ スポーツ人の集い

市内のスポーツ関係者が一堂に会し、活動状況報告や意見交換、親睦を深めることを目的に2019年度に開催しました。

講演の講師には、リオ大会まで3大会連続でセーリング競技に出場した牧野幸雄選手を迎え、競技の特徴等を分かりやすくお話いただきました。



2020年2月実施

(7) 公益財団法人藤沢市みらい創造財団

市のスポーツ推進課や東京オリンピック・パラリンピック開催準備室と連携し、様々なスポーツ関連事業を実施し、また、体育施設でのチラシ配布・ポスター掲出や、季刊誌での大会PRなど多岐に渡りご協力いただきました。

ア オリンピック教室 / パラリンピック教室

市と共催で2017年度から2019年度までの3年間開催（2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止）し、様々な競技のオリンピック・パラリンピアンから直接実技を学び、間近で講和を聞く機会を提供しました。子ども達を始め、多くの市民が選手との交流を通して、かけがえのない体験をし、選手への応援や大会気運の醸成、パラスポーツの普及につながる取組となりました。



イ ふじさわセーリングフェスタ

東京2020大会セーリング競技の江の島開催の決定を受けて、2017年度から今年度まで5年連続で開催しました。セーリング競技の普及啓発は、今大会のレガシーとして継続して取り組まれています。



ウ パラスポーツフェスタ / ふじさわポッチャ競技大会

パラスポーツフェスタは、2016年10月「かながわパラスポーツフェスタ2016 in ふじさわ」として、本市と神奈川県との共催で、秩父宮記念体育館で実施した大会を契機に、2017年度以降は、市と同財団の共催で開催され、様々なパラスポーツ体験を

ととして、スポーツのノーマライゼーションの推進に取り組みました。(2017年度は荒天で、2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止)

ふじさわボッチャ競技大会は、2017年度に第1回の大会を開催し、続く2018年度まで市と連携して開催しました。(2019・2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止)

ふじさわパラスポーツフェスタ2021
11/28日
 秩父宮記念体育館
 12:15～15:30
 参加料 無料
 先着 500人
 ※事前申込優先
 ※なたでもご参加いただけます



ふじさわボッチャ競技大会
 パフォーマンス
 正式競技!
 だれでも楽しめるスポーツの
 大会に挑戦してみよう!
 申込不要の
 ボッチャ体験も
 あります!

2019年3月10日(日) 午前10時00分～午後3時30分
 開催場所 教養文化体育館 第一体育館
 参加費 一般の部 24チーム位まで参加可
 申し込み 2月10日(日)12時～12時30分まで受付
 申し込み先 市民センター 市民活動課 市民活動推進係
 〒250-0292 藤沢市 市民センター 市民活動課 市民活動推進係
 TEL: 0466-840023 FAX: 0466-840043
 E-mail: fujisawa@city.fujisawa.jp

エ 季刊誌「MIRAI.net」やチラシに大会関連情報を掲載

同財団が年4回発行の季刊誌（発行部数：5,000部）で東京2020大会情報を随時掲載し、公共施設（市民センター・公民館、図書館、体育施設等）で配布し、また2016年リオ大会時には、藤沢市ゆかりの選手についてチラシデザインを作成いただき、広報にご協力いただきました。

東京2020オリンピック・パラリンピック報告
 ホルトカバルリンピック選手団
 事前キャンプレポート 神奈川県立立石スポーツセンター
 セーリング選手 よしよバア インタビュー!

江の島にセーリングワールドカップ
 がやって来る!
 セーリングワールドカップシリーズ 江の島大会2018
 2018.5.18-19(土・日)
 セーリングって何だろう?

東京2020オリンピック・パラリンピックをみんなで盛り上げよう!
 オリンピック・セーリング競技江の島にやってくる!

みんなで応援しよう!
 リオデジャネイロ オリンピック
 開催期間: 2016年8月5日～8月12日
 リオデジャネイロ パラリンピック
 開催期間: 2016年9月7日～9月18日

パラリンピック選手にインタビュー!
 東京2020オリンピックまであと約1年、日本代表選手あり、練習拠点を、練習環境を整えていく中、本格的な選手インタビューを行いました!

2016年リオ大会出場
藤沢市ゆかりの選手のチラシ

オ 事前キャンプの選手団激励

同財団の非常勤職員でパラリンピアンである石井雅史氏と、同財団職員の方に、県立スポーツセンターにお越しいただき、ポルトガルパラリンピック選手団の練習の様子などを見学し、激励していただきました。

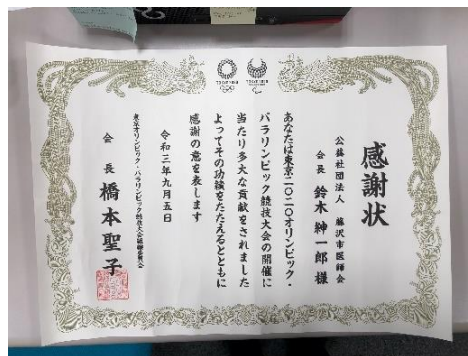


(8) 公益社団法人藤沢市医師会

大会期間中、セーリング競技会場内の医務室に医師・看護師を常時派遣していただき、安全安心の大会運営にお力添えをいただきました。



大会期間中、医師・看護師がスタッフとして従事



組織委員会から感謝状が贈られました

(9) 公益社団法人藤沢市歯科医師会

海外から多数の観光客やセーリング競技の観戦客が、本市を訪れることが見込まれるため、南休日歯科診療所に、診療用の翻訳機を備え付け、受け入れ対応の準備を図りました。

また、当団体の敷地内にセーリングデザインの JOC 支援自動販売機を設置し、大会気運の醸成にご支援をいただきました。



JOC 支援自動販売機の設置

(10) 一般社団法人藤沢市薬剤師会

アンチドーピング講演会を開催したほか、啓発イベントにおいて、東京2020大会のPRを行っていただくなど、大会の盛り上げにご協力をいただきました。



湘南藤沢市民マラソンで
アンチドーピングのブースを出展



おくすり週間イベントで
東京2020大会のPRを実施

(11) 公益財団法人藤沢市保健医療財団

検診等の受診者などに対して、東京2020大会のPRを積極的に行っていただき、また、大会エンブレムポスターの掲出や大会関連事業のチラシ配布等を通じて大会気運の盛り上げにご協力をいただきました。



(12) 社会福祉法人藤沢市社会福祉協議会

シティキャストフジサワを対象としたオンライン研修で、「地域の身近なボランティア～地域活動と福祉ボランティア～」を題材に、講話をしていただきました。

また、老人福祉センターの利用者等を対象に、江の島ヨット音頭、東京五輪音頭-2020-の講習会の開催や、主催事業でパラスポーツ体験を実施するなど、健康増進や地域福祉の推進等を目的としたイベントの中で、楽しみながら本大会に向けた盛り上げにご協力いただきました。



(13) 特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構

藤沢市との協働事業、「藤沢ビッグウェーブ」の事務局として、開催準備室と連携し、LINE・メールマガジンによる大会関連情報の積極的な発信や、大会に向けた気運を高めるイベントの開催、大会を盛り上げる市民の自主的な活動の支援など、市民参加型大会の実現に向けて様々な取組を進めていただきました。藤沢ビッグウェーブ関連の取組内容については、本報告書内、各所に記載のとおりです。

(14) 江の島振興連絡協議会

〔さざ波会等の江の島島内の諸団体と実行委員会形式で実施した取組等を含みます〕

ワールドカップシリーズにおける文化イベントによるおもてなし、神輿、お囃子、江の島ヨット音頭ほかによる盛り上げを行っていただきました。

また、カウントダウンイベント等、東京2020大会関連イベントでも江の島ヨット音頭、東京五輪音頭-2020-披露等による盛り上げを行っていただくなど、非常に多岐に渡る取組にご協力をいただきました。







(15) 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

東京 2020 大会を題材とした様々な学術分野の市民講座を、市と共催で実施しました。学園祭ではボッチャ競技の体験コーナーを設置し、パラスポーツの普及にご協力いただきました。また、本市で事前キャンプを行ったエジプトについて広く市民に知っていただくため、大学のアラブ文化研究会と協力して、文化PRや動画放映、パネル展示を行いました。



(16) 日本大学生物資源科学部

日本大学藤沢高校卒業生で 2016 年リオ大会の競泳に出場した五十嵐千尋選手に、市民報告会にお越しいただきました。また、セーリングワールドカップシリーズ江の島大会 2018 の開会式で、日本大学藤沢高校の生徒が、参加国のプラカード先導者を務め、オリンピックを目指す選手との交流と、多様性を世界に発信する役割を担いました。



五十嵐千尋選手 (写真右)
東京 2020 大会 競泳出場



セーリングワールドカップシリーズ 2018
開会式

(17) 湘南工科大学

松陵祭で、本市の文化プログラムの重点プロジェクトに位置付けられているハンドスタンプアートの手形収集と、ボッチャ競技体験ブースの設置を行い、文化振興と共生社会の推進にご協力いただきました。

また、湘南工科大学附属高校（表敬当時）で、アジア競技大会の競泳種目で銅メダルを獲得した小堀倭加選手が、大会結果報告のため市長表敬を行いました。



ハンドスタンプアート

小堀倭加選手 市長表敬
東京2020大会 競泳出場

(18) 多摩大学グローバルスタディーズ学部

藤沢市人権啓発講演会や、藤沢市市民講座2017「東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて」を開催し、多様性や、藤沢市の観光・インバウンド等についての内容で講演を行いました。また、ボランティアの学内説明会や、学園祭でのセーリング写真展、ボッチャ競技体験会などを開催し、東京2020大会開催を見据え、市の取組や大会成功に向けてご協力いただきました。



IV 市内各種団体等における主な取組

市内の各種団体等の皆様からも、東京 2020 大会に向けて、気運の盛り上げやおもてなしなど、多岐にわたる取組を通じご支援・ご協力をいただきました。

1 ボランティア企画提案プロジェクト

ボランティア活動の活性化を目的としてボランティア関連事業提案を募集。28 団体の応募があり、11 団体が採択されました。



<湘南台アートスクエアプロジェクトの実施>

湘南台駅地下広場を、音楽、アートなどの文化や交流の場として盛り上げるボランティアによる取組。イベントでは中・高生による東京 2020 大会にまつわる絵画も展示されました。



<シェルチャームを選手村で提供>
ボランティアの手で、着物の端切れから日本のおみやげとして作られました。



<#フジサワの高校生プロジェクト>
高校生が地元を誇りを持ち、街を盛り上げていく活動のきっかけづくりを目指す取組。江ノ島電鉄のご協力の下、各駅へポスターを掲出しました。

2 東京 2020 大会パートナー企業との連携

東京 2020 大会パートナー企業と、イベントでの出展，大会関連グッズ等の協賛，事業協力など多様な連携を図り，大会気運の醸成につなげました。また，本市と包括協定を提携している大会パートナー企業とも連携して取り組みました。

(1) 東京海上日動火災保険株式会社神奈川支店



リスクマネジメントに関する
職員向けセミナー



ボッチャボール寄贈



職員スポーツ大会にゲスト参加



イベントでのボッチャ体験，ブース出展にご協力

(2) 東京ガス株式会社神奈川西支店



イベントでのボッチャ体験，ブース出展にご協力



職員スポーツ大会に
ゲスト参加



東京 2020 パラリンピック
競技大会報道写真展

(3) コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

JOCオリンピック支援自動販売機の、セーリングデザインを全国で初めて、藤沢市朝日町駐車場の敷地内に設置したほか、市内の4か所の体育施設及び、3か所の消防署出張所にも設置しました。東京2020オリンピック聖火リレー点火セレモニーが開催された辻堂神台公園には、聖火リレーデザインの自動販売機を設置しました。

また、本市主催のイベント等に、フォトスポット物品の貸し出しや、飲料の提供をいただき、大会気運醸成にご協力をいただきました。



セーリングデザインの自動販売機



聖火リレーデザインの自動販売機



フォトスポット物品の貸出協力

(4) 日本郵便株式会社



山田恵里選手の地元の御所見郵便局にゴールドポスト設置



市内31郵便局へ藤沢ビッグウェーブのポスターを掲出協力

(5) トヨタ自動車株式会社



イベントでの大会啓発用物品の配布・お絵描き用車両の MIRAI の出展



市内外の販売店で藤沢ビッグウェーブのポスター等の掲出

イベントへの神奈川県オールトヨタ販売店アンバサダー 女優 積 由美子さんの参加ご協力

(6) 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社



藤沢駅自由通路で東京 2020 大会の横断幕設置協力

イベントでのブース出展にご協力

(7) 総合警備保障株式会社

(8) アサヒビール株式会社



イベントでのブース出展にご協力

イベントでのブース出展にご協力

3 江島神社との連携

東京 2020 大会出場のスーリング選手のために扇子をいただき、スーリング選手村で贈呈しました。また、スーリングワールドカップシリーズ時には、海外選手のおもてなしの場をご提供いただきました。



4 地区社会体育振興協議会との連携

市内 35 地区の地区社会体育振興協議会と連携し、各地区で開催される地区レクリエーションなどにおいて、東京 2020 大会の幟旗を掲げ大会気運の醸成にご協力をいただきました。



5 藤沢市障がい者スポーツ連絡協議会との連携

協議会会長の種田多化子氏に、県立スポーツセンターにお越しいただき、ポルトガルパラリンピック選手団の練習の様子などを見学し、激励していただきました。また、パラスポーツフェスタなど市の取組とも連携し、共生社会の推進に尽力いただきました。



6 善行地区社会福祉協議会との連携

善行地区社会福祉協議会広報部会の方が、地区内の県立スポーツセンターを訪れ、事前キャンプを行ったポルトガルパラリンピック選手団の練習風景を見学し、練習の様子を善行地区福祉だよりで練習の様子を情報提供するなど、共生社会の推進に向けて地区内に啓発を図っていただきました。



7 藤沢市内のロータリークラブの取組

東京 2020 大会セーリング競技開催期間中、ふじさわ湘南ロータリークラブなど市内の 9 つのロータリークラブが合同で、江の島を訪れた方へのクールスポットとして、江の島北緑地広場にブースを設置し、熱中症対策のうちわを配布していただきました。



8 株式会社フジサワ名店ビルとの連携

フジサワ名店ビルの壁面広告に、藤沢ビッグウェーブをPRする懸垂幕の作成と、掲出場所をご提供いただきました。



9 湘南ジャズ体操ファミリーとの連携

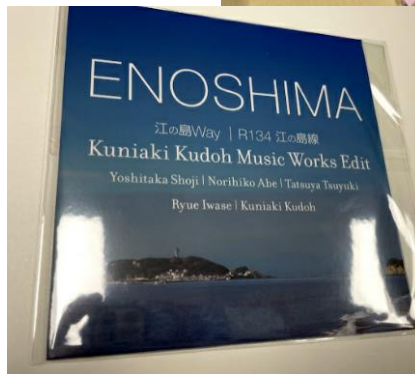
大会 500 日前イベントをはじめ、多数のイベントで東京五輪音頭-2020-を踊り、また、踊り方の講習会を開催していただくなど、大会気運の醸成にご協力をいただきました。



10 市民有志の皆様からのおもてなし

市民有志の方から、東京 2020 大会の開催を記念して、おもてなしのために自身が作詞作曲した楽曲を収めたCDを事前キャンプ実施国やセーリング選手へのおもてなしとして、事前キャンプ実施時や大磯の選手村でお贈りしたほか、市民まつり等の気運醸成ブースなどで配架させていただきました。

また、シティキャストフジサワの有志が同じくおもてなしのために制作した手作りの小物などについても、事前キャンプ参加国の選手関係者らにお贈りしました。



1.1 子ども達による事前キャンプ実施国への激励

県立スポーツセンターにおいて、ポルトガルパラリンピック選手団の事前キャンプの実施期間と同時期に、夏休みの子どもの居場所事業「サマースクール」に参加していた児童から、選手関係者へ、応援や歓迎のメッセージが贈られたほか、手旗等による観覧席からの応援や、選手村へ出発するバスの見送りに来ていただくなど、激励していただきました。

また、地元善行地区にある児童養護施設の子ども達を書いた応援メッセージの掲示とともに、同施設で制作した応援メッセージ動画を放映するなどし、激励の気持ちをお伝えいただきました。



サマースクールに参加した児童による観覧席からの応援やバスの見送りなど



児童養護施設の子ども達を書いた応援メッセージの掲示と応援メッセージ動画の放映

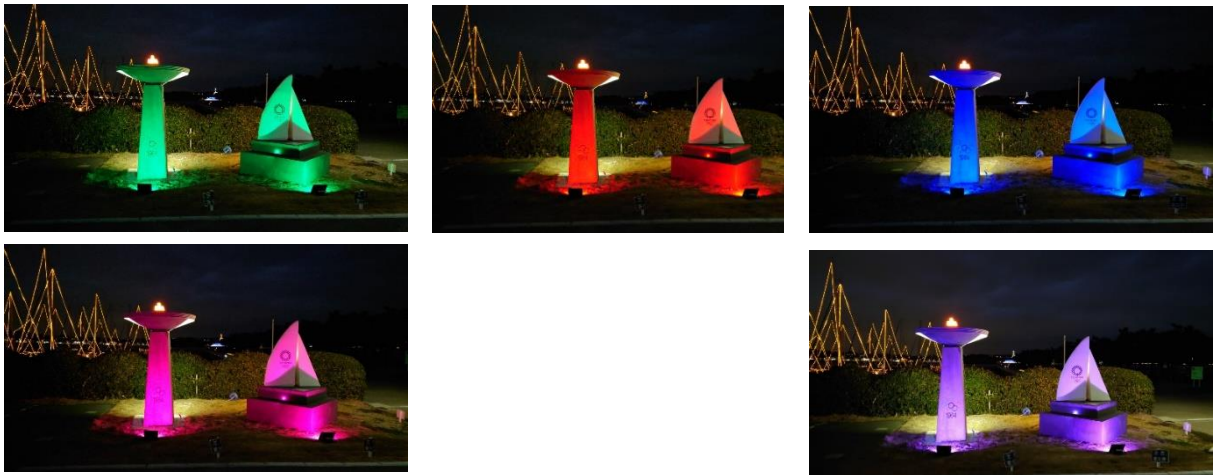
1.2 鉄道事業者を活用した気運醸成の取組

江ノ島電鉄と湘南モノレールの車体に県内開催4競技デザインの東京2020マスコット・ミライトワをデザインしたラッピングを神奈川県が行い、また、小田急電鉄も同様に東京2020マスコットをデザインした車両を運行し県民や沿線を訪れる観光客などに広く大会開催をPRしました。

なお、江ノ島電鉄は、セーリングワールドカップシリーズの開催をPRするため、セーリング日本代表チームの愛称である「日の丸セラーズ」のロゴマークをあしらったラッピングトレインも運行し、セーリングの盛り上げを後押ししました。



参考写真



湘南港に設置された、1964年大会の聖火台と2020年大会のモニュメント「湘南の宝石」に合わせてライトアップされた



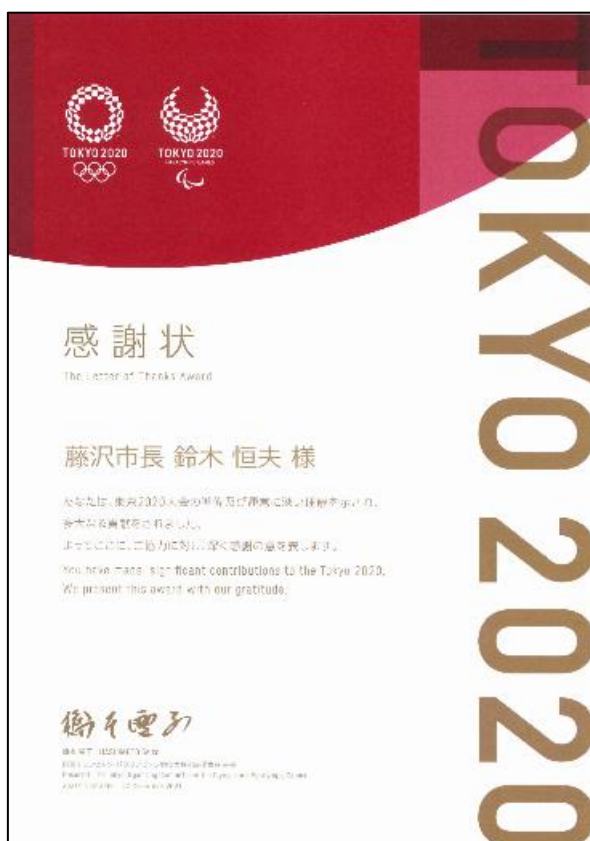
東京2020大会終了後、日本セーリング連盟が掲出した、応援への感謝を伝えるポスター



日本セーリング連盟が、東京2020大会開催を記念して制作した飲料ラベル



日本セーリング連盟から本市に贈られた、東京2020大会セーリング競技日本代表選手らの氏名が記された記念皿



組織委員会の橋本聖子会長から鈴木市長宛ての東京 2020 大会への協力に対する感謝状



丸川 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣から藤沢市宛てのホストタウンの取組に対する表彰状